

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことのは2号館		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 7日口 ~ 令和 8年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 7日 ~ 令和 8年 2月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和 8年 2月 7日 ~ 令和 8年 2月 28日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問時の様子だけでなく、事業所での様子や知能検査、発達検査の結果も考慮に入れて、利用児に必要なと思われる支援を提案している所。	訪問時の様子を言語聴覚士や保育士といった専門職にも共有し、必要に応じて意見をもらって報告書を作成している。事業所全体の取り組みとして、定期的に支援に関する勉強会を実施している。	今後も事業所内での勉強会を継続して行い、訪問担当職員の専門的知識を増やしていく。また、言語聴覚士といった専門職からの意見も報告書等に反映させていき、報告書や申し送りの専門性を向上していく。
2	訪問時の様子や訪問先の先生方から頂いた情報を事業所内での支援に反映させている所。	訪問後に終礼にて事業所職員に訪問時の様子を共有している。また必要に応じて事業所内で支援会議を実施し、職員内での支援内容の共通認識を持てるようにしている。	今後も事業所内での情報共有を継続して行い、訪問担当職員だけでなく全職員が共通認識を持って担当児の療育に取り組めるようにしていく。
3	次年度の担任の先生への引継ぎで使用できるよう、年度末に1年間の訪問の総括を書面におこし、保護者と訪問先に共有している所。	知能検査や発達検査、事業所での言語に関する検査の結果も踏まえ、今後の支援や訪問の目標を明記している。	今後訪問支援員や対象児童が増えた場合にも、引き続き同様の支援を継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問担当職員が限られており、職員の体調不良等の不測の事態の時の対応が十分でない。	訪問担当職員が限られており、職員の体調不良等の不測の事態の時の対応が十分でない。	訪問職員の育成を行い、訪問対応が可能な職員を増やしていく。
2	保育所等訪問支援を希望したいとの相談があるが、受け入れられないケースがある。	同時間帯に児童発達支援の児童が教室に来所し利用しており、そちらのマンパワーの確保とのバランスが難しい。また、訪問支援が実施できる職員が少ないため、訪問支援を必要としている児童の受け入れ可能な人数にも制限が出ている。	職員の補充を含む人数確保と訪問職員の育成を行い、訪問対応が可能な職員を増やし、訪問支援の枠の増加を図る。
3	保護者へ訪問先の様子で写真を交えて共有する事が難しい。	訪問先にて不特定多数の子ども達があり、個人情報の観点から写真撮影を行っていない。	訪問先の担当教諭と相談調整を行い、写真撮影の許可が出た際には当該児童以外は特定できない様に処理をしてご家族と共有できるよう検討する。